

今まで多くの発掘調査を行ってきましたが、河原口坊中遺跡のように、掘っても掘っても竪穴式住居跡が重なって発見されるのは珍しいです。これは、時代を超えて何度も繰り返し、この場所が使い続けられたことの証拠といえます。それだけこの土地が魅力的な場所だったということでしょう。

また、発見された弥生時代の川の跡は、現在の地面から3〜8層も下に埋まっていた。こんなにも深い場所に昔の川があったことに驚き、印象的です。川の跡の発掘調査で、普通の遺跡では滅多に残らないような木器や骨角器などが出てきたときは、2000年前の「宝物」を発見したように感激したのを覚えています。

河原口坊中遺跡の発掘は驚きの連続でした



インタビュー

公益財団法人かながわ考古学財団
池田 治さん
弥生時代の文化についての研究が専門

弥生のムラに鉄が来た!! ～河原口坊中遺跡の鉄斧はどこから来たのか～

河原口坊中遺跡から出土した弥生時代の鉄斧を中心に、事例発表・講演・討論会を行います。

日11月23日(木)祝 10時～16時30分
場えびな市民活動センタービナレッジ 対 高校生以上の方 **定**280人
講文化庁記念物課埋蔵文化財部門主任文化財調査官・禰宜田佳男氏、専修大学文学部歴史学科教授・高久健二氏など **費**無料 **申**10月2日(月)から、①行事名「公開セミナー」②郵便番号 ③住所 ④氏名 ⑤電話番号を記入し、かながわ考古学財団ホームページ「催しもの参加申込フォーム」、またはメール、往復はがき、ファクスで(公財)かながわ考古学財団本部「公開セミナー2017」係 ([HP](http://www.kaf.or.jp/)http://www.kaf.or.jp/、[E](mailto:fukyu@kaf.or.jp)fukyu@kaf.or.jp、〒232-0033横浜市南区中村町3-191-1、☎045・252・8689、☎045・261・8162)へ。31日(火)必着。応募多数の場合は抽選 **他**申込者全員に受講可否の通知を送付。車いす、磁気ループの利用希望者は申し込み時にお知らせください

第37回温故館企画展

河原口坊中遺跡展

～大山を望む弥生のムラ～

【展示】

期10月19日(木)～12月10日(日)

場温故館 **費**無料 **他**展示作業のため10月17日(火)・18日(水)・12月11日(月)・12日(火)休館

【展示解説】

展示担当者、発掘調査担当者・池田治氏による解説を行います。

日①10月21日(土) ②11月4日(土) ③29日(水) 10時～11時

※③は展示担当者による解説のみ **定**先着50人 **費**無料 **申**当日、直接会場へ



【ワークショップ】

費用無料。当日、直接会場へ。

日①「弥生時代の拓本で缶バッジづくり」10月21日(土)・11月4日(土) 9時～12時

②「スタンプで特製ポストカードづくり」10月21日(土)・11月4日(土)・29日(水) 9時～12時

③「田下駄体験」展示中毎日 **定**①先着50人

種・昆虫・編みかごからみた弥生時代の暮らし

河原口坊中遺跡の自然科学分析をした植物考古学の研究者による講座です。

日11月5日(日) 14時～15時45分

場市役所401会議室 **対**中学生以上の方 **定**先着100人 **講**株式会社パレオ・ラボ、明治大学黒耀石研究センター／佐々木由香氏 **費**無料 **申**10月2日(月)から、電話で教育総務課へ

期期間 **日**日時 **場**場所 **対**対象 **定**定員 **講**講師 **費**費用 **他**その他 **申**申し込み **HP**ホームページ **E**Eメール

手先が器用!! 編みかご

植物の皮で編みこまれたかご。調査の結果、竹笹類でできているということが分かりました。



5.1cm



編みかごは、上段・中段・下段・底部分と太さの違う材料で、編み方を変えて作られていたよ。とっても手先が器用だったんだね。



たくさんの丸い模様は何のため!?

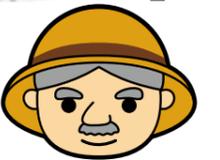
ぼっこつ ト骨

シカの骨で占いの道具として使ったもの。弥生時代に中国大陸から日本列島に伝わったとされています。



19.3cm

シカの肩の骨などに焼けた棒を点状に押し付けて、どんな色になるか、ひびがどう入るかを見て占いをした、と考えられているよ。2000年前の人たちも、私たちと同じように、祈りや占いをする「心」を持っていたんだね。



しょうどうたく 小銅鐸

祭りで使われた道具の一つ。内部の形から音を鳴らすものと考えられています。



8.1cm

4.1cm



ほぼ完全な形で出土した貴重な例だよ。県内では3個見つかっていて、なんとこのうちの2個が海老名で出土したんだ。

河原口坊中遺跡出土品：神奈川県教育委員会所蔵 写真：神奈川県教育委員会提供

弥生時代とくえぼ?

河原口坊中遺跡から発見されたものなどから当時の人々の暮らしを想像し、弥生時代の特徴をおさらいしてみよう。

何年前のじょう?

紀元前5世紀～紀元3世紀頃とされる。科学的測定により、はじまりが紀元前10世紀までさかのぼるといふ見解も。

代とされている。同時に稲作に使う農具も発達した。

土器

弥生土器はデザインがシンプル。縄目模様の縄文土器よりも薄いものが多く、土器を作る技術が進化したことが分かる。貯蔵用のつぼや食べ物を盛るための高坏など、この時代から各用途ごとに種類が豊富になる。



稲作文化が大陸や朝鮮半島から伝わり、水田耕作を始めたのもこの時

たてもの

地面を掘りくぼめて柱を立てる形の、竪穴式住居に住んでいた。河原口坊中遺跡からは、はしごやねずみ返しが見つかっていることから、稲を保管するための高床式倉庫が建てていた可能性も。



占いに使用するト骨やアクセサリーの勾玉、ガラス玉も見つかっている。海老名にも卑弥呼のように祈りやまじないをする人がいたのかも。